

◆5月17日に理事会が開催され、4件の事項が報告されと7件の事項が審議されました。以下に理事会の議案と報告、審議結果の概略をお知らせします。

### 理事会議案（2014.05.17.）

#### 【報告事項】

- 1 - 1 Vallat氏との意見交換
- 1 - 2 野田・奈良・花村各顧問および野中先生へのご挨拶と懇談
- 1 - 3 メルマガ4月号の発行と今後の広報およびメルマガ編集態勢  
ポレミックの場としてメルマガを活用する。「巻頭言（KMの動向の紹介と問題提起）」  
および「私の調査研究（インタビュー）」
- 1 - 4 その他

#### 【審議事項】

- 2 - 1 野中先生監修の「SECIモデルによる持続可能性経営（仮称）」研究部会の設立
- 2 - 2 KMSJの研究者データベースの構築
- 2 - 3 知的資産経営ウィークにおけるKMSJ & WICRS共催の国際シンポジウム
- 2 - 4 2015年大会の開催校候補
- 2 - 5 理事会への議題等の上程手続
- 2 - 6 その他
  - ①財政問題の検討態勢
  - ②会則改訂の検討委員会の構成員

#### 【報告事項】

- 1 - 1 Vallat氏との意見交換  
4月28日、日本のナレッジ・マネジメント研究のため来日したフランス・リヨン第1大学準教授ダヴィッド・ヴァラット（Vallat）氏が日本橋の日本ナレッジ・マネジメント学会を訪れ、久米副理事長、進理事、高山理事が応対しました。進理事の報告の概要は以下の通りです。  
ヴァラット氏の研究テーマは、アントレプレナーシップ、CSR、KMなど。ゲーム理論のKM応用を実践研究中で、特にヘルスケア分野や老人ホーム経営に応用。

今回の来日目的は、日本の KM 状況把握と研究テーマに沿ったパートナー探しであった。そのため、KMSJ の他、在日仏大使館を訪問し国際会議 ICSSAM に参加。フランス人研究者、さらには生活者として、ヴァラット氏が語った問題意識は興味深いもので、以下にご紹介する。

- ・ フランスはデカルトの影響がいまだに残り、理性的思考優先でエモーショナル部分を切り捨てる傾向がある。
- ・ ネット利用等、利用テクノロジーは進むが教育方法は 100 年前と同じで、教えることがメイン。自ら学ぶ方向が必要。
- ・ モチベーションに野中理論が利用できるのではないか。
- ・ 生活面で、仕事と家庭の区別があまりにも明確
- ・ 大企業はツールを持つが、中小（500~1,000 人規模）は時間的余裕がなく、KM も知らない。
- ・ 仏政府は老人ホーム経営への KM 適用といった新しいことには消極的。

フランス人のマインドを変えるためにも日本の事例が欲しいとのこと。高山理事がエーザイ(株)の *hhc* 活動を説明した際には興奮気味で“アメイジング!”を連発、自分たちの遙か先を行っている、との感想であった。今後は情報交換をしつつ今秋にでも再来日したいとの意向で、学会も協力を約束した。

(注) リヨン大学は 3 大学からなり、第 1 大学は 19 世紀フランスの医師で生理学者、クロード・ベルナールの名を冠した医学・理学・工学系大学。他 2 大学は人文科学系。 (<http://lyon-university.org/>)

以上、進理事の報告でした。

#### 1 - 2 野田・奈良・花村各顧問および野中先生へのご挨拶と懇談

花堂理事長、久米副理事長が就任ごあいさつのため、野田一夫特別顧問、奈良久彌特別顧問を訪問し、懇談しました。

#### 1 - 3 メルマガ 4 月号の発行と今後の広報およびメルマガ編集態勢

- ・メルマガに「巻頭言」を掲載します。
- ・インタビュー記事「ナレッジ・マネジメントの現在」を随時掲載します
- ・メルマガを含め、広報担当理事として矢澤洋一理事を指名  
(以上 5 月号メルマガにて既報)

### 【審議事項】

- 2 - 1 野中先生監修の「SECI モデルによる持続可能性経営（仮称）」研究部会の設立（メルマガ 5 月号既報）
- 2 - 2 KMSJ の研究者データベースの構築

本学会の研究者の方々の研究者データベースを作成し、会員間での情報の共有化や対外的な対応の効果を挙げる。年度内に基本的な調査を実施し、完成させる。

2 - 3 2015年の年次大会の開催校候補

開催校を都内の大学に絞り、7月の理事会で正式決定する

2 - 4 知的資産経営ウィークにおけるKMSJ & W I C R S 共催の国際シンポジウムについて

・例年、秋に実施している当学会と早稲田大学知的資産研究会とのシンポジウムを今年も共催することに決定しました。

2 - 5 理事会への議題等の上程手続

一般会員が、理事会へ議案を上程しやすくするため、理事経由で審議案件を上程することをルール化することにした。

2 - 6 その他

①当学会の財政問題の打開を図るため、久米副理事長が担当となって委員会を立ちあげること決定した。

②当学会の規約を時代に合わせて見直すこととし、委員会を発足させる。とりあえず、7月の理事会でブレインストーミングを行い、課題を抽出する。

(以上、文責は広報担当理事 矢澤洋一)